

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものであるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを合せて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	(有)ハートコネクト
(ユニット名)	グループホーム さくらの樹
所在地 (県・市町村名)	佐賀県鳥栖市弥生が丘4丁目22番
記入者名 (管理者)	甲斐 直美
記入日	平成 20 年 5 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		理念の実現に向けて、職員一人一人の意識を今以上に高めていきたいと思います。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	庭や野菜作りを通して、施設内に入り易い雰囲気を作るように取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の要改善項目については早期に話し合い、自己評価についても更なる質の向上を目指すように全体会議で取り上げ、話し合い取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要改善だった地域の代表者の方の参加も得られています。そこで得られた意見や提案も積極的に検討しサービスに活かしています。		今後も更に地域との結びつきを深めて、サービスに活かしていきたいと思います。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域のグループホーム協議会に加入しており、市町村とも連携して会合や研修に出席し、情報交換や質の向上に努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度等の理解は出来ていますが、現在までは必要な方はおられません。必要があれば活用していきたいと思います。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的だけでなく、精神的ダメージの虐待も視野に入れ、言葉使いや接し方なども日頃からスタッフ全員で気に掛けており、徹底できています。		これからも考えられないことですが、見過ごされない様に常に注意していきたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定、重要事項説明書に沿って丁寧に説明し、入居者、家族の同意を得て、署名、捺印を頂いています。不安や疑問点についてもすぐに対応出来ていて、納得もして頂いています。		今後も不安や疑問点はすぐに質問して頂ける様に、面会時などにも常に家族とのコミュニケーションを図るように気に掛けていきたいと思っています。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい環境作りと、小さな変化も見逃さないようにスタッフ全員で心掛けています。そのためにも常にスタッフ間で情報を共有し、連絡し合うようにしています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には積極的に話す機会を作り、個人記録や日々の写真をもとに近況の報告を行っています。また、毎月のホーム便りでは、預かり金出納一覧やスナップ写真にそれぞれの近況も添え、家族にとっても喜んで頂いています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が話しやすい環境作りと、利用者の小さな変化も報告するようにスタッフ全員で心掛けています。そのためにも常にスタッフ間で情報を共有し、連絡し合うようにしています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体会議では、職員それぞれが会議までに、事例→原因分析→対策までを考え会議で発表し、全員で討論し合う機会がありたくさんの意見を反映することが出来ています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	規定以上のスタッフの配置で余裕を持たせているので、柔軟な対応や利用者の生活ペースに合わせた対応も出来ています。職員に関しても個々の都合を考慮した勤務体制に努めています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	採用時、質の良い介護のできる職員を選んでいきます。家庭の事情等でスタッフの離職はありますが、他の職員のフォローで今のところ、ダメージなどは見られていません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に都度、外部の研修会の案内はしており、経験年数などから順次研修会に参加してもらっています。研修も勤務扱いとする事により、より一層真剣に取り組んでもらえるようにしています。内部的には職員採用時の数日間の研修や日頃からシフトを工夫してスタッフ同士での資質向上に努めています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鳥栖地区のグループホーム協議会や介護支援専門員協議会に入会しており、定期的な会合や研修会などを通じて、横の連絡体制が出来ています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	利用者が過ごされるリビングや居室から離れた位置に和室の休憩室があり、ゆっくり休息出来る空間となっています。また、各々の抱えているストレスを把握し、早期に改善できるように話しやすい環境づくりに努めています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	出来る範囲内でスタッフの希望する勤務時間と、それぞれの特技を生かせるようなシフト体制を心掛けています。年2回は運営者と全職員での食事会、昇給や賞与なども充実しています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用開始までには、本人と積極的に面談して関係を作り、様々な情報を得られるように心掛けています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族間での意見の違いにも細心の注意を払い、本人が希望する、希望するであろう方向性を見極めるように努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の際は必ず病歴、生活状況など聞き取りを行い、他方面の専門の方にも相談して慎重に対応しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所や積極的に面談を取り入れる事で少しずつでも馴染んで頂ける様に努めています。自宅の庭仕事がお好きな方で、本人や家族の状況を見ながら外出して自宅での庭仕事を続けてもらい、ホームでも自宅に近い環境を提供し、少しずつホームに慣れて頂きました。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩でもある利用者に学ぶ事はたくさんあり、味噌、梅干、漬物、干し柿、料理法などを教えて頂き、一緒に作ったりしてお互いに補い支え合い良い関係が出来ています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	スタッフだけでは対応が困難な時(精神的な食欲不振、家族の不幸ごとなど)、家族の協力を得ながら乗り越える事が出来ました。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	様々な家庭状況の把握に努め、積極的に話す機会を設け、より良い関係になるように心掛けています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの方の面会は多く、今までと同様の関係が続いている。遠方の方には電話や手紙を書くことの支援もおこなっています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互い耳が遠くても馴染みの関係でコミュニケーションは取られており、座位で食事のつぎわけをすれば、歩行出来る方が、運んでくださるなど、自然な流れが出来ています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院退所の方には、可能な限り面会を心がけ、近況などの情報を得ています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の勝手な思いの押し付けにならない様に、常に問いかける介護やわずかな反応、つぶやき語や表情も見逃さないように心掛けて、職員間でも常に話し合う機会を設けて、検討しあっています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族、関係者から聞き取りを行っています。日々の生活の中でも本人や家族から知り得た情報などは必ず記録に残し、ケアに活かすように努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員の気付きなどを時間に沿って記入する個人記録で、様々な発見が多数あり日々のケアに役立っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には面会時や毎月のホームだよりにて、本人の希望や近況を報告して意見を尋ね、全スタッフで作成する介護計画に役立てています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて、全スタッフで見直しをしている。利用者の状態の変化に伴い、期間に満たない場合も、その都度家族に相談し見直ししています。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録は時間に沿って行動を記録しており、それに伴う利用者の表情や言葉(つぶやき語)や気づきを全職員で具体的に記録しています。</p>		<p>今以上のサービスの質の向上の為に、様々な気づきなどを拾い上げ、ケアに活かせるように努めていきたいと思いをします。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の面会時には積極的に話す機会を作り、状況の報告や要望の確認をしています。又、スタッフの配置にゆとりを持たせる事により柔軟な対応も出来ています。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>利用者の町内の知り合い、昔からの友人、利用者家族の友人、近隣の保育園など多方面からのボランティアの受け入れもしており、利用者の楽しみの1つにもなっています。警察の立ち寄りもしていただき、年に1回消防訓練、救命訓練を行っている。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>ケアマネ会に入会もしており、他のケアマネージャーと関わりを持つ事で、様々な情報を得ています。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現在は必要とされる利用者はおられず協議していません。</p>		<p>今後、必要があれば相談したいと思っています。</p>
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族の希望により以前からのかかりつけ医への受診も可能で、現在は訪問医療7名、通院医療2名(送迎可)となっています。往診には家族が立ち会い医師の説明を受けます。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週1回の往診と緊急時24時間の対応と、いつでもスタッフが相談できる体制を取って頂いています。それにより疾患の早期発見につながっています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員、訪問診療の看護師とも日常の健康管理から24時間緊急時の連絡体制までの対応もできています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医同士、ソーシャルワーカーや家族とも連絡を密にし情報を共有する事で、早期退院に向けての働きかけをしています。又、入院中でも管理者はじめ職員は可能な限り面会し、不安を軽減できるように努めています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望に添える終末期を送れるように、早期から医師や家族とも説明や話し合いを繰り返し、同意書を頂いています。また、職員全員で方針も共有して統一したケアに努めています。		常に、状態の変化に伴う報告や連絡を密にして、今以上にチーム一丸となり統一したケアに努めたいと思います。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師の指導の元に現状の設備や看護、介護スタッフで出来ること出来ないことを見極め話し合い、家族にも説明し同意を頂いています。		今後も多様なケースを想定して、チーム一丸となり取り組めるように今以上に勉強会などを増やしていきたいと思っています。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族の希望はもちろん、これまでの暮らしぶりやケアの内容など相手先の関係者に事細かに伝え、ダメージを最小限にするように努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に人生の先輩としての声掛け介助することを心掛けており、尿失禁の場合などは他の利用者に気付かれぬような配慮もしています。担当者、全体会議などにて最低限の個人情報を用いることに関しては、入所時に同意を頂いています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の能力に応じて意思表示をしやすい声掛けの工夫と優しい雰囲気作りに努めています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、それぞれの入居者の生活リズムを尊重して、ご本人のペースを守って過ごして頂いています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好みの衣類、ワンピース、スカートなども選んで着て頂くように支援しています。ほとんどの方が訪問理美容を利用しており、カットだけでなくカラーを希望される方もおられます。家族の協力で行きつけの美容室に行かれる方もおられました。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、下ごしらえ、皮むき、つぎ分け、配膳、食器拭き、テーブル拭きなどなどそれぞれに出番があり、それにより食事の会話も弾んでいます。誕生日にはリクエストメニューも取り入れて喜んで頂いています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在喫煙者はおられません。日頃から希望に応じて、梅酒やコーヒーなど楽しんで頂いています。また、一部の利用者にはワインや日本酒のご本人用を預かりして希望時には楽しんで頂いています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者全員、昼夜にわたり排泄チェックを行っています。だいたいの排泄パターンも把握できており、利用者に応じてケアプランにも取り入れ失敗をなくすように努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は決まっていますが、利用者の希望にも応じています。楽しみの一つでもあるので、時間帯をゆっくりと組み、プライバシーに配慮しながら、スタッフと1対1でゆったりとした気分で入浴して頂いています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入所時には今までの生活習慣を尋ね、生活リズム崩さないよう配慮しています。利用者の状況に応じて、リビング横の和室での休息も取り入れています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味を把握し、能力に応じて、水遣り、庭掃除、草取り、配膳、拭き掃除などなど場面場面で役割出番が多数あり、それが張り合いにもなって生き生きと生活されています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上で少額のお金をお持ちの方もおられます。各利用者の預り金もあり、必要時は支払いの支援をします。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前午後と散歩外出の時間を設けています。スタッフと1対1で会話しやすい雰囲気の中でコミュニケーションを図りながら楽しんでおられます。全体外出では、レストラン外食、季節のお花見なども楽しみの一つになっています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力でサッカー観戦、ピアノコンサート鑑賞、生まれ故郷までのドライブなどの支援が実現できています。		まだ一部の利用者しか実現出来ておらず、今後、家族と協力して実現していきたいと思います。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物の礼状など、遠方の子供さんやご親戚の方などに電話したり手紙を出す事で近況など伝える事が出来ています。特に自筆の年賀状は先方にとっても喜んで頂いています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会はでき、希望すれば一緒に食事や宿泊も可能です。面会時には日々の様子をスナップ写真や個人記録を見ていただき近況を伝えることに努めています。		個人記録は今以上に進んで見て頂く様にもう少し工夫していきたいと思います。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今までも全く事例は無く、精神的な拘束もしないように徹底しています。全体会議でも話し合う機会を作るように心掛けています。		職員も気付かない言動もありえるので、職員同士で気付き指摘し合えるように今度も更に注意をしていきたいと思いをします。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はすべての出入り口には鍵はかけておらず、常に職員の声掛け見守りで利用者が自由に行動できるようにしています。外出希望時には職員がさりげなく付き添えるような体制を作っています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	思い思いの行動に制限すること無くプライバシーに配慮しながら、職員同士の連携により、声掛けや見守りが出来ています。夜勤帯スタッフ1名の時も常に居室入り口を見渡せる位置で見守り介助しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じて、包丁、果物ナイフ、ピーラーと使い分けています。その際は常に見守りを怠らないようにしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員同士の声掛けや連携で事故防止に努めています。事故が発生した場合は、ひやりはっと事故報告書を作成し、全体会議にて話し合い再発防止に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救命救急士による心配蘇生術、AEDの操作法の指導、実習を全職員が行っています。		全職員が消防署主催の講習会にも参加して更に技術向上を図りたいと思います。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の指導による日中や夜間を想定しての避難訓練を行っています。その際、近隣の方々へも案内し、参加も頂いています。		新興住宅街の為、今以上の啓発を更に努めていきたいと思ひます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の希望を尊重した上で、その際のリスクを利用者と家族に説明し了解を得ています。全職員はリスクを把握し、統一した自然なケアを心掛けています。ひやりはと事故報告書にもリスクのランクを設けて、今後の対応に活かせる様にしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェック、健康チェックをおこなっています。少しでも日常との特変があれば、速やかに主治医に連絡し、指示を全員に申し送りし情報を共有し対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	分かりやすく日付け毎に保管管理し、誤薬の無いように職員同士で確認し合い服薬介助しています。又、毎週水曜日には薬局の先生の来訪で副作用などの説明を更に詳しく受ける事も出来ます。		利用者1人1人の薬剤情報をファイルしていつでも見れるようにしていますが、新しい職員にも完全に把握できるように努めたいと思ひます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、排便のチェックを行っており、便秘気味の方には腹部マッサージ、旬の野菜を取り入れた食事、好みの飲み物で十分な水分摂取の声掛けを行っています。運動不足にならない様にお散歩も日課に取り入れています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後利用者に応じた支援を行っており、義歯は毎夕食後に洗浄液に浸漬して保管しています。また、定期的に歯科往診にも来て頂いています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食、水分摂取は毎回チェックしており、摂取量がおちている時には速やかに医師にも相談したり、食事形態やトロミを検討したりしています。水分は特にこまめに摂取して頂くようにお茶、コーヒー、ポカリスウェットなど好みに応じて、飲んで頂いています。		利用者個人用のポットを用意して、今以上に一日一定以上は確実に水分摂取されるように支援していく予定です。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日常的に1ケア1手洗いを徹底し、玄関横には消毒液やマスクを設置して、スタッフ、来訪者にも協力頂き、外部からの持ち込みにも注意をしています。毎年、利用者職員全員が予防接種もおこなっています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は日曜日以外毎日、翌日分の新鮮な食材を調達し、家族や近隣の方より、採れたて新鮮な野菜を頂くこともあります。包丁まな板など調理器具の消毒、食器も每晚ミルトン消毒を徹底しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には、季節ごとに家族、職員が準備した花を利用者と一緒にお世話し、来訪者の目を楽しませています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設的にならないように心掛けています。特に台所は利用者が自然と集まって作業が出来るような配置(アイランドキッチン)で、それぞれの能力が発揮できています。又、家族や職員が持参して下さる花や散歩で持ち帰った草花でいつも季節感を味わうことも出来ています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ソファ、テーブル、サンデッキなど、思い思いに過ごせるように配慮しています。自然と利用者それぞれの心地良い居場所が出来ています。		特にソファなどは定位置が決まり過ぎて、不公平にならないようにも注意していきたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームに設置のベットや整理ダンスは入居時に好みの物を選んでもらっています。家庭に近い環境作りの為に馴染みの物、写真、小物、椅子、テーブル、本など持参してもらっています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムで対応しています。湿温計の設置とスタッフの体感でなく利用者に合わせた温度調節を心掛けており、浴室、脱衣室も温度差のないように配慮しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の能力に応じて、座位でも出来る低い物干しの準備、高さの調節できるテーブルなど工夫しています。		浴室の出入りの際の更なる自立支援のために、手すりを追加で設置予定です。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の見える位置に本人の写真と名前付きのプレート、各トイレにも分かりやすく案内プレートを設置しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関脇の季節の花のお世話、南向きのサンデッキには家庭菜園もあり、水遣り草取りなどの活動やお散歩したり、ベンチに座り日向ぼっこなども楽しまれています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

スタッフの配置に余裕を持たせることにより、常に利用者様のペースを守り出来る限りの自立支援を目指しています。出来る事、出来そうな事、今までできていた事をスタッフの支援により、ご本人のペースでやっていただく事により、喜びや生きがいを持っていただいております、ますます生き生きと生活されています。『楽しいわが家 明るい家族』を目指し、いつも明るく笑顔が絶えずに、自然と皆さんがリビングに集い助け合いながら生活されています。楽しみの一つにもなっている、お花見外出やランチ外出はもちろん、毎日の食事でも季節の野菜を取り入れ彩りも工夫して入居者様、ご家族様にも喜んでいただいております。